

H22.2.25

実施課題大項目	実施計画課題	実施状況	裏付資料	点検結果	評価結果
教育課程の構築	三大学医工薬連環科学教育研究機構の設置	関西大学、大阪医科大学、大阪薬科大学で、大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム「『医工薬連環科学』教育システムと社会還元～分子から社会までの人間理解～」の共同実施に関する協定書が平成21年9月1日に3大学の学長によって締結され、平成21年10月に三大学医工薬連環科学教育研究機構が設置された。機構内の構成員、担当者および事務担当者も決定された。また、三大学戦略的大学連携支援プログラム推進に係る共同事業契約書についても、平成21年12月18日に三大学の理事長によって締結された。	大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム「『医工薬連環科学』教育システムの構築と社会還元～分子から社会までの人間理解～」の共同実施に関する協定書 医工薬連環科学教育研究機構の構成員、担当者、事務担当者一覧表 三大学戦略的大学連携支援プログラム推進に係る共同事業契約書	医工薬連環科学教育研究機構の設置については、平成21年10月に設置され、その構成員、事務担当者等についても決定した。これより、本プログラムを実施する体制は十分に整備できている。	◎
	生命科学分野の教育・研究実績のある大学での問題点調査	東京女子医科大学と早稲田大学が医学と理工学の融合による新たな学問領域の創出のために設立し、共同運営を行っている「先端生命医学センター、TWIns」を平成21年11月27日に訪問し、有意義な意見交換が行えた。さらに、平成22年3月に、岐阜大学と岐阜薬科大学が工学と薬学で連携した事業である「国際的視点に立つ創薬研究者養成のための実践的な教育研究システム」のプログラムを視察する予定である。	早稲田大学（TWIns）への訪問調査について（出張報告書）	本学の取組みである医学・薬学・理工学の連携教育・研究について、先進的な取組みを実施し、素晴らしい成果を挙げている2機関についての訪問調査は非常に有意義である。	○
	他分野基礎専門科目知識として必要な科目内容の策定	専門分野外の履修学生のアンケート結果をもとに、専門外の専門科目を学ぶ上で必要となる基礎科目を精査し、それに基づく履修モデルを策定し、公開する。	履修学生のアンケート	履修学生のアンケートに基づいて、必要となる専門基礎科目について、精査を実施している。	△
	「単位互換に関する覚書」の締結	大学コンソーシアム大阪への提供科目と公開範囲の制限により、単位互換に関する覚書の締結は必要としない。	戦略的大学連携支援プログラム採択に係る打合わせ議事録	単位互換についての締結は存在している。	◎
	現行カリキュラムの範囲内での三大学同時開講講義の試行	関西大学：福祉工学概論、機能性食品、社会環境適応材料、大阪医科大学：医学概論、大阪薬科大学：生薬学2、機能形態学1を実施、履修学生は医学概論：6名、機能形態学1：12名、生薬学2：17名、福祉工学概論、機能性食品、社会環境適応材料は0名であった。これらの講義はすべて同時開講で、遠隔講義を利用した。	履修届表	全6科目の開講科目のうち3科目には履修学生はいたが、他の3科目には他大学の履修者が0であった。今年度は試行であるので、この状況もやむなしともいえる。平成22年度はすべての科目に履修生が存在するように努力する必要がある。	△
	自大学以外の学生による授業評価アンケートの実施	医学概論、生薬学2、機能形態学1の履修学生対象に授業終了後毎回アンケートを行った。	学生アンケート	授業毎にアンケートを実施してあるので、講義内容・授業方法、専門基礎科目などについて十分な情報を得ることができた。これらの情報に基づいて、カリキュラムの改善、講義内容・授業方法の改善、さらに必要となる専門基礎科目に関する情報もえることができる。	◎
	カリキュラムの精査	機構内の教育開発部門が中心となって、履修学生の授業アンケート、担当教員による意見交換により、平成22年度実施のカリキュラムについて精査し、策定した。	履修学生のアンケート 教育開発部門委員会議事録	教育開発部門が中心になって、履修学生のアンケート、担当教員との意見交換などにより、機構が進める教育プログラムを推進する内容でかつ、専門外学生が興味をもつ内容のカリキュラム設計にしようと努力している。	○
	単位互換の実施	履修学生の内、単位互換に基づき、単位修得の条件を満足した学生について、単位を認めた。	成績表	履修学生に対して、単位互換制度のもと、単位修得条件に基づき、精査し、単位を認めている。ただし、単位修得者が少ない点、さらにすべて関西大学学生である点は問題である。平成22年度は修得者の増強と大阪医科大学および大阪薬科大学の学生の単位修得をめざすことが急務である	△
教育支援システムの構築と教育環境の整備	三大学医工薬連環科学教育研究機構の設置	遠隔講義の運営とその改善のために、特別任用教員として、関西大学1名、大阪薬科大学1名、TAとして関西大学に4名、大阪薬科大学に10名を常駐させ、授業とその環境の改善に努めている。	雇用契約書 戦略的大学連携支援プログラム採択に係る打合わせ議事録	関西大学および大阪薬科大学では、遠隔講義の運営とその改善のための特別任用教員およびTAを雇用し、常駐させている。ただ、大阪医科大学は、まだその環境までに至っていない。	△
	遠隔講義システムの導入と試験運用	遠隔講義システムとして、関西大学（高槻キャンパス）に2台（移動式遠隔講義システム）、大阪薬科大学に4台、大阪医科大学（本部キャンパス）に4台、おのの設置し、稼働確認は終了している。	操作マニュアル 授業写真等	遠隔講義システムはすべての使用教室に設置され、稼働確認も終了し、授業で使用している。	○

実施課題大項目	実施計画課題	実施状況	裏付資料	点検結果	評価結果
教育支援システムの構築と教育環境の整備	高槻地域と関西大学千里山キャンパス間での遠隔講義システムの拡充と試験運用	遠隔講義システムとして、関西大学（千里山キャンパス）に6台設置しており、稼働確認も終了している。	操作マニュアル 授業写真等	遠隔講義システムはすべての使用教室に設置され、稼働確認も終了し、授業で使用している。	○
	各大学諸機関との連携強化	三大学での図書館相互利用は包括的な協定により実施している。遠隔講義システムの運用に関して、三大学のICT関連センターまたは関連部署の緊密な連携は確立されている。三大学間での単位互換に向けての教務システムについては、三大学の教務関連センターおよび部署間で緊密な連携のもとに運用している。さらに、本助成金の運用については、本機構の機構運営協議会によって、慎重に審議され、適正な方法で運用されている。	包括協定に関わる書類 機構運営協議会議事録	三大学諸機関の連携強化は、進みつつあり、本取組みの円滑な運営を支援する方向に強く推進されている。	◎
	特別任用教員・TAなどの募集	特別任用教員として、関西大学1名、大阪薬科大学1名、TAとして関西大学に4名、大阪薬科大学に10名が雇用され、常駐している。ただし、大阪医科大学においては、平成21年度は両人材とも登用するに至っていない。		関西大学および大阪薬科大学では、特別任用教員およびTAを雇用し、遠隔講義の運営と改善に重要な役割を担っている。しかし、大阪医科大学は、まだ両人材を登用するまでに至っていない。	△
教育活動成果の社会との共有による「地域社会」への還元	三大学医工薬連環科学シンポジウム開催	平成21年10月9日三大学医工薬連環科学シンポジウム（会場：関西大学）、平成22年1月28日三大学医工薬連環科学シンポジウム（第2回）（会場：関西大学）を開催した。第1回シンポジウムは72名、第2回シンポジウムは79名の参加者であった。	開催通知チラシ 講演資料集	シンポジウムを2回開催し、出席者が各シンポジウムとも70名以上の参加者があった。十分な回数および参加者であった。	◎
	高大連携：アドバイザー制度の企画	アドバイザー制度について、教育サポート部門の委員会で検討し、企画案を策定した。	教育サポート部門委員会議事録 アドバイザー制度企画案	教育サポート部門委員会で十分に検討し、アドバイザー制度企画案を策定した。	◎
	高大連携：自由研究顕彰制度の企画	自由研究顕彰制度について、教育サポート部門の委員会で検討し、企画案を策定した。	教育サポート部門委員会議事録 自由研究顕彰制度企画案	教育サポート部門委員会で十分に検討され、自由研究顕彰制度企画案を策定した。	◎
	高大連携：出張講義	平成21年12月17日 土室小学校、 平成22年1月13日 高槻小学校、 平成22年1月15日 奥坂小学校、 平成22年1月20日 南大冠小学校、 平成22年1月25日 五百住小学校 でのおおの開催した。	授業資料 授業アンケート	高槻市内の小学校5校で開催した。しかし、高槻市内の中学校、高等学校への展開がなされていない。	△
	社会連携：公開講座	高槻家族講座 平成21年12月12日 シリーズ第1回「食と健康」『プリン・ぶるるん・水ようかん』（参加者160名）、 平成22年2月27日 シリーズ第2回「食と健康」『お口 スッキリ 健康家族』（参加者250名） 家族講座は高槻市内の企業と連携して行う行事で、講演とこどもを中心とした体験コーナーで構成されている。 平成21年10月17日 第28回 大阪薬科大学市民講座『おくすりと上手に付き合っていますか』（参加者270名）	開催通知チラシ 講演資料集 アンケート結果	公開講座として、高槻家族講座を2回開催した。各回とも、講演には150名～200名、体験コーナーは30組程度の参加者があった。 市民講座についても、270名もの参加があった。 どの公開講座も盛況であった。	◎
	三大学医工薬連環科学教育研究機構のホームページ開設	平成21年10月1日に開設し、平成21年12月24日に大幅な改定をおこなった。定期的（週に1回以上）に内容を更新している。	ウェブサイト	内容更新は週に1回以上行い、最新の情報を公開している。	◎
	アドバイザー制度の広報	高槻市教育委員会と協議の結果、教育委員会としてアドバイザー制度は設定することが難しいとの意見を受け、アドバイザー制度に代わる事業として、化学オリンピック日本委員会との連携で、化学実験カーによる化学実験体験する機会を提供する。	教育サポート部門委員会議事録	アドバイザー制度は検討の結果、中止となったが、本制度の目的である「化学オリンピック」に参加を希望する生徒などへのサポートとして、化学オリンピック日本委員会との連携により、化学実験カーによる化学実験体験をする機会を提供する事業へと展開を進めている。	○
	自由研究顕彰制度の広報	高槻市教育委員会と協議を重ね、平成21年3月に広報を開始する予定である。	教育サポート部門委員会議事録	今年度の末には公開する予定となっている。	○
	現行カリキュラム内容による授業評価アンケート結果の公表	各授業ごとにアンケートを実施し、その解析を行っており、その結果を機構のウェブサイトで公表している。	ウェブサイト	授業評価アンケートの結果については、公表している。	◎
	アンケート結果の公表	出張講義、公開講座についてのアンケートを解析し、その結果は、平成22年3月に公表予定である。	ウェブサイト	アンケートの実施、解析は行っているが、その結果は平成22年3月公表する予定である。迅速な公表が必要である。	○